市政の動き トピックス

写真と広報紙の２部門で高い評価得る

2026年全国広報コンクールで「広報こばやし」が入選しました

自治体広報の甲子園と呼ばれる2026年全国広報コンクール（日本広報協会主催）で、小林市の広報紙「広報こばやし」が「広報紙（市部）」と「広報写真（一枚写真部）」の２部門で入選しました。

入選は昨年に引き続き２年連続。入選したのはどちらも「広報こばやし」令和７年８月号です。

戦後80年を題材にした特集を中心に構成する紙面全体が広報紙部門（市部門）で入選３席（全国４位）。西小林小学校の慰霊集会で雨に濡れながらも傘を差し、献花をする子どもたちを切り取った１枚（３ページ目）が広報写真（一枚写真部）で入選２席（全国３位）に選ばれました。

表彰式は７月17日に愛媛県西予市で開催予定の「第63回全国広報広聴研究大会」内で行われます。

【「広報こばやし」令和７年８月号の概要】

受賞号では、「未来に繋げ 命のバトン」と題して、戦後80年について特集。終戦間際に西小林国民学校（現在の西小林小学校）の児童らが機銃掃射に遭った悲劇をはじめとする、地域に残る戦争の記憶や爪痕、平和への願いなどについて17ページにわたり掲載しています。

▼詳しい内容はコチラから確認できます

国際交流員 ロバートのコラム

「ドイツのバルコニー文化」

●問＝地方創生課　TEL 23-1148

お母さんのバルコニー「眺め」

「バルコニヤ」という国を聞いたことがありますか。ないでしょうか。もちろん、そんな国は実在しません。それでも、夏になると、多くのドイツ人がそこでリラックスして過ごします。

ドイツでは、初夏の６月になると海や湖へ出かけたり、公園でのんびりしたり、バーベキューを楽しんだりする人が増えてきます。雨の日も少なく、気温も過ごしやすい季節です。自然の緑に囲まれながら過ごすのは、とても気持ちがいいものです。また、自宅の庭いじりを楽しむ人も少なくありません。花だけでなく、野菜やベリー類を育てる人もいます。ちなみに、ドイツのいちごは初夏から夏にかけて旬を迎えます。

お母さんのバルコニー「トマトとキュウリ」

では、「車を持っていない」、「公園や海が近くにない」、「庭のないアパートに住んでいる」という人はどうするのか。そう、「バルコニヤ」へ行くのです。

名前から想像できるかもしれませんが、バルコニヤとは、アパートに付いている「バルコニー」のこと。そこで花や野菜を育て、心地よい椅子やテーブルを置き、景色を眺めながらコーヒーを飲んだり、ケーキを食べたり、本を読んだりして過ごします。私の母の場合は、キュウリとトマトを育てています。

もちろん、バルコニーを物干しとして使う人も少なくないかもしれません。しかし、多くのドイツ人にとって、バルコニーは自分好みに作れる、すぐに行ける小さな逃避場所なのです。

旅行ができなくても、バルコニーをきれいに整えるだけで、少しリラックスできますからね。